

第4学年 図画工作科学学習指導案

ろ組 男子 19 名 女子 20 名 計 39 名

指導者 徳 留 健 成

1 題 材 なりきり鑑賞ミニ劇場

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、本校正門前に設置されている4体のブロンズ像を、体全体を使って動作化したり、言語化したりしながら、そのよさや面白さを自分なりに感じ取る鑑賞の題材である。

この期の子どもたちは、自分や友達がつくった身の回りの作品だけでなく、子どもの生活の中で身近に感じられる美術作品においても興味を示すなど、鑑賞の対象が広がりつつある。一方で、自分と対象を一体化するような気持ちで作品を鑑賞する傾向も見られる。また、鑑賞して気付いたことや想像したことを進んで友達に紹介していくなど、グループでの活動にも意欲的に取り組むようになってきている。

そこで、本校正門前に設置されている4体のブロンズ像を鑑賞することは、体全体を使った様々な鑑賞の仕方を通して作品とふれ合いながら、自分の見方・感じ方でとらえ、自分なりの意味を見出していくことができる。その結果、身近な美術作品に関心を持ち、意欲的な態度で鑑賞することができるようになる。また、体全体を使って様々な鑑賞の仕方を試みる中で、作品の気持ちやせりふを発想したり、作品のテーマや場面を自分なりに設定したりしながら鑑賞することで、つくりだす力を伸ばしていくことができる。そして、作品をじっくりと見たり、友達と感じたことや思いを交流したりすることで、互いの発想や活動、作品自体のよさを味わい、感じ取る力を伸ばしていくことができる。さらに、様々な鑑賞の仕方を試みる中で、見るポイントを基に鑑賞していくことや体全体を使って鑑賞していくことのよさに気付き、その鑑賞の仕方を身に付けることができる。

このように、身近な美術作品のよさや面白さを感じ取る鑑賞の学習は、4年生の題材「鑑賞カードゲームで楽しく見よう」で、美術館に収蔵されている作品がカードになったアートカードを使ってゲームを行いながら、様々な作品のよさや面白さを感じ取っていく鑑賞の学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で鑑賞する作品は、本校の創立100周年を記念して制作された作品で、正門前のロータリーに設置されており、入学式や卒業式、また年度初めの写真撮影の際によく利用されるなど、子どもたちにとってなじみのある作品と言える。本作品（右）は、4人の児童が横に並んで立っている作品で、4体の位置関係やそれぞれに動きがあり表情が豊かに表現されているため、作品に対する自分なりのイメージをもったり、さらにそれを膨らませたりしやすく、鑑賞する楽しさを味わいながら意欲的に鑑賞活動に取り組むことができると考える。



また、作品へのイメージをもったり、さらに膨らませたりするためには、見るポイントに沿って鑑賞しながら自分のイメージを関係付けていく言語活動や体験活動を行うことが大切である。その際、見るポイントを基に、作品と向き合ってじっくりと鑑賞したり、友達と感じたことや思いを話し合ったり、認め合ったりすることで、互いの発想や活動、また作品自体のよさを味わいながら鑑賞活動に取り組めるようにする必要がある。さらに、見る角度を変えたり、見るポイントに沿ったりしながら鑑賞することや、五感を使って作品とふれ合ったり、動作化したり、言語化したりしながら鑑賞することのよさに気付き、自分なりの鑑賞の仕方と活動に取り組めるようにする必要がある。

このような学習を通して子どもたちは、見るポイントを基に体全体を使って鑑賞したりすることのよさに気付き、自分なりに意味を見出していく楽しさや喜びを味わいながら、創造的に表現・鑑賞していく能力や態度を培うことができると考える。

《指導案の見方》
今回の研究が特に反映されている
部分は、ゴシック体になっています。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまでの図工の時間において、中間鑑賞活動や題材終末鑑賞活動、また独立鑑賞の授業や朝の活動の「わくわくクロッキー」の時間、さらには日常的な作品掲示などによって、互いに鑑賞し合う楽しさやよさを味わってきている。そのため、ほとんどの子どもたちが、作品を鑑賞することについては（※1）好きであると回答している。しかし、友達の作品を見ることに楽しいと感じない児童も1名いるので、鑑賞する楽しさが味わえるような展開にしていく必要がある。

作品から自分なりのイメージをもつことができるか、人物の立体作品を提示してそのタイトルを発想することについて（※2）は、3名の子どもが発想することができていない。作品を鑑賞する際に、自分なりのイメージをもてるような手立てを考える必要がある。

友達との感じたことを交流することについて（※3）は、1名の子どもが「おもしろいと思わない」という理由で「好きではない」と回答している。しかし、「自分や友達のよさに気付くことができる」「友達からアドバイスがもらえる」「自分の作品に生かせる」など、ほとんどの子どもたちは友達と学び合うことのよさに気付いているので、それらをさらに広げながら、個に応じた指導を行うようにしていきたい。

立体の作品の鑑賞の仕方について（※4）は、見るポイントを挙げてそれらを基に鑑賞することの大切さを回答した子どもが半数近くいた。また、こわさないように鑑賞することの大切さを回答した子どもが10名いたが、そのうち3名が「さわらない」と回答している。本題材では、触れたり、においをかいだり、音を聞いてみたりするなど、五感を通した鑑賞活動も取り入れて、鑑賞の仕方の幅を広げられるようにしていきたい。

(4) 指導上の留意点

ア 身近な美術作品を鑑賞する楽しさや面白さを味わうことができるようにするために、屋外にある実際の作品の前で鑑賞活動を行い、作品にふれたり、作品の動きをまねたり、せりふを考えたりするなど、様々な活動に取り組めるようにする。その際に、**必ず振り返る場を設定して、それぞれの活動のよさや感じたことを発表させたり、板書やワークシートで視覚的にも自分の高まりが実感できるようにしていきたい。**

イ **作品を鑑賞して自分なりのイメージをもったり、それをさらに膨らませたりすることができるようにするために、見るポイントに気付かせて、それらを基にじっくりと鑑賞することを確認したり、体全体を使ってなりきって鑑賞することを提案したりして、子ども自身がより作品と一体的になれるようにしていきたい。**また、作品の気持ちやせりふ、また作品自体のテーマについて考えた子どもを紹介し、それぞれの考えや思いなど多様に発想していくことを認めていきたい。

ウ 友達と学び合うことのよさ実感し、積極的に話し合うことができるようにするために、活動途中でグループでの活動を取り入れていくようにする。その際に、和やかな雰囲気で行えるように、互いに認め合ったり、異なった感じ方も大切にしたりすることを事前に確認できるようにする。さらに、友達との学び合いから、自分のイメージをもてたり膨らませたりした子どもを紹介し、価値付けていきたい。

エ 自分なりの鑑賞の仕方の幅を広げることができるようにするために、子どもたちに「どんな鑑賞をしてみたいかな」と投げかけ、できるだけ子どもの思いを大切にしながら様々な鑑賞の仕方を体験し、生活の中においても自分なりの鑑賞の仕方を身に付けられるようにしていきたい。

実態調査 4年組 39名（4月中旬実施）

- 
- 鑑賞することについて ※1
好き（38名） 好きではない（好きではない理由）（1名）
 - ・ 友達の作品を見ても楽しくない。
 - 作品のタイトルについて ※2
※「反映/思索」（アントニー・ゴームリー）を提示（上）。
思い付いた（36名） 思い付かない（3名）
 - 友達と感じたことを交流することについて ※3
好き（38名） 好きではない（1名）
（好きではない理由）
 - ・ おもしろいと思わない。
 - 立体の作品の鑑賞の仕方について（複数回答）※4
 - ・ 見るポイントを基に鑑賞する。（21名）
 - ・ こわさないように鑑賞する。（10名）
※ このうち「さわらない」と回答した者は3名。
 - ・ 表現意図や場面を考えて鑑賞する。（5名）
 - ・ 立体的な作品になっているか鑑賞する。（3名）
 - ・ 分からない。（3名）

3 目 標

- (1) 体全体を使ってブロンズ像を鑑賞したり、感じたことを話し合ったり、鑑賞活動に意欲的に取り組むことができる。
- (2) ○ ブロンズ像を鑑賞する中で、作品の人物の気持ちやせりふを想像したり、作品のテーマ自体迫ったりしながら、自分の中に意味を見出していくことができる。
○ 見るポイントを基に作品を鑑賞する中で、互いの発想や活動、また作品自体のよさや面白さを感じ取ることができる。
- (3) 見るポイントを基にじっくりと見たり、言語化・動作化を行ったりしながら様々な鑑賞の仕方を理解し、それを使って鑑賞活動に取り組むことができる。

4 指導計画（全2時間）

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け	1 作品の第一印象を交流する。 ワークシート→発表→板書	1 (本時)	○ 本時の見通しがもてるように、作品の第一印象を基に、これからもっとじっくりと鑑賞していくことを本時のめあてとして確認する。 ○ 体全体を使って鑑賞できるように、どんな鑑賞の仕方をしていきたいか子どもに尋ねる。子どもの発言や思いを広げたり、教師から提案したりして、 五感を使って作品とふれ合う鑑賞活動を行うようにする。
鑑賞活動	2 学習のめあてを確認する。 正門前の作品を鑑賞しよう。 3 鑑賞活動を行う。 (1) 鑑賞活動①「ふれ合いタイム」 《～五感を意識して～》 ・ 触ってみると… ・ 音を聞いてみると… ・ においをかいでみると… (2) 鑑賞活動②「なりきりタイム」 ①見るポイントの確認《形、動き、向き》 ②なりきりポーズ ～なりきってポーズをつくろう！～ ③なりきりトーク ～なりきってせりふを考えよう！～		
評価	4 本時を振り返り、第1印象と比較させる。 ワークシート→発表→板書	1	○ 一人一人の感じ方が深まるように、 鑑賞活動を行う際に、事前・事後の指導を行うことで、ねらいや見通しを明確化したり、感じたことを交流する際に価値付けたりする。 ○ 感じ方が深まったことを実感できるように、板書やワークシートで視覚的に表せるようにする。
鑑賞活動	5 前時の鑑賞活動の学びを生かして、グループで作品のテーマを考える。 ・ どんな場面か ・ 何をしているのか テーマ説 6 グループのテーマを基に、どのように表現するか話し合い、発表する。 よし、このテーマでいこう。 このテーマだったら、ここの体の動きをもっと変えた方がいいな。 7 学習を振り返る。 ・ 作家の思いが伝わったよ。 ・ 鑑賞って、面白いな。 ・ 作品がもっと好きになった。		
評価			○ 活動への意欲をさらに高めていけるように、前時で学んだことを生かして、今度は、 自分たちで4体のブロンズ像を表現したり、解説したりすることを提案する。 ○ 活動が深まるようにするために、グループで決めたテーマに合うように、実際の作品の動きを変えたグループを紹介し、全体に促すようにする。 ○ 友達の活動や発想のよさが感じ取れるように、グループごとに発表する場を設け、互いに感想を交流させる。 ○ 自分の感じ方の高まりや鑑賞活動のよさが面白い、今後の鑑賞活動につなげていけるように、作品への愛着や自分の感じ方の変化等に気付かせる。

5 本 時（1／2）

(1) 目 標

- ア 五感を通して作品になりきって感じ取ったり、感じたことを友達と進んで話し合ったりしながら、意欲的に鑑賞活動に取り組むことができる。
- イ 鑑賞活動に取り組む中で、作品の気持ちやせりふを想像しながら自分のイメージをもったり、さらに膨らませたりしていくことができる。
- ウ 作品と向き合ってじっくりと見たり、感じたことや思いを友達と交流したりしながら、互いの発想や活動のよさを実感したり、新たに気付いたりすることができる。
- エ 作品を鑑賞して気付いた見るポイントを基に、様々な鑑賞の仕方を知り、実際に様々な鑑賞活動に取り組むことができる。

(2) 本時の展開に当たって

導入では、子どもたちにとって身近な正門前のブロンズ像の第一印象を発表させたり、板書やワークシートに書き残したりすることで、終末での感じ方との違いを比較させ、自分の感じ方の高まりが実感できるようにしていきたい。また、**五感を通して鑑賞したり、作品の動きをまねたり、作品の人物のせりふを考えたりしながら、友達と感じたこと交流を通して、作品の気持ちや作家への思いなど、自分のイメージを膨らませていけるようにしていきたい。**

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け	1 作品の第一印象を交流する。 ・四人とも仲がよさそう。 ・何か言っているみたい。	(分) ↑ 5	○ 活動への意欲を高めるために、作品のところに移動しながら期待感が高まったり、楽しい雰囲気になったりするような声かけをするなどして、作品への出会わせ方を工夫する。
発想	2 学習のめあてを確認する。 正門前の作品を鑑賞しよう。	↓	
鑑賞活動	3 鑑賞活動を行う。 (1) 鑑賞活動①「ふれ合いタイム」 冷たいな。どんなにおいがするのかな。 どこか見ているぞ。必死な表情をしているな。 何かさげんでいるよ。 後ろの様子はどうなっているかな。 (2) 鑑賞活動②「なりきりタイム」 見るポイント：○形 ○動き ○向き よし、同じポーズをとってみよう。首は結構曲がっているわ。 どんなことを話しているのかな。せりふを考えてみよう。	↑ 3 5	○ 体全体を使って鑑賞できるように、「どんな鑑賞をしてみたいかな」と投げかけ、「触ってみたい」「においをかいでみたい」など、子どもの思いを引き出しながら、五感を通して鑑賞活動が行えるようにする。その際、どんなことを感じたか、振り返る場を設定し、価値付けられるようにする。
評価	4 本時の学習を振り返る。 ・人物の気持ちが伝わってきたぞ。 ・この作品についてもっと考えてみたいな。	↓ 5	○ さらに作品を感じ取らせるために、「作品になりきってみよう」と投げかける。ポーズをつくるために、よく見ることの必要性を感じさせて、見るポイントへと焦点化させるようにする。 ○ 作品へのイメージをさらに膨らませたり、具体的にしたりできるように、せりふを考えさせる。その際、作品のテーマを決めて考えさせるようにする。 ○ 鑑賞活動の価値や自分の感じ方の高まりが実感できるように、作品から自分なりの意味を見出している子どもを紹介したり、第一印象と終末の振り返りを板書やワークシートで比較させたりする。